

Strutt, Joseph. A complete view of the dress and habits of the people of England, from the establishment of the Saxons in Britain to the present time, 2vols. by Joseph Strutt and a new and improved ed. with critical and explanatory notes by J. R. Planché. London, Henry G. Bohn, (1796—1799) 1842. 32.2×25.5 cm <383.133-S-1~2>
 Hiler p. 820 Colas 2824-25 Lipp. 1001

不屈で独創的なストラット (1749—1802) の著作とされる本書の初版は、1796—1799年に刊行されたが、この初版本には多くの誤りがあった。そのために約半世紀を経過した1842年、彼の死後40年を経て、イギリスの紋章と服飾史研究家であるプランシェ (1796—1880) (3) が、批判と注釈を加えて訂正し、1842年に改訂新版として刊行したのが本書である。

イギリスの好古家で銅版画家であるストラットが、「私たちの祖先の広くゆきわたった流行を示し整えられた書物は、これまでなかった」として、その着想の新奇さからも世界に先駆けて発刊された本書は、真の意味での体系化された初期の西洋服装史研究書とされた。151枚の入念な手彩色が施された銅版画は、本書の中でも重要な部分を占め、それらは、大英博物館、オックスフォード大学のボドリー図書館にある同時代の写本からの図版や古代の真正な遺物から絵画・彫刻における衣服の手法を誠実に模写したものであった。

序説では、8枚の図版を含め、古代から7世紀までのエジプト人、ペルシャ人、アジアの民族、ギリシャ・ローマ人の衣服の概要が述べられ、5世紀ごろアングロ・サクソン人がイギリスの基礎を確立し、17世紀に至るまでのイギリス服装史への導入部分となっている。全2巻より成る本文は、143枚の図版とイギリス国民の衣服と習慣の全貌が、五つの部分によって構成されている。その内容は、①アングロ・サクソン族 (5世紀にイギリスに移住したチュートン系の一派)の市民、軍人、聖職者の服装。8世紀末まで。②9世紀初めからノルマン人の出現(11世紀)まで。③アングロ・ノルマン人の服装。ウイリアム1世の即位(1066年)から12世紀末まで。④12世紀末から14世紀初めまで。⑤イギリス人の市民、軍人、聖職者の服装。14世紀初めから17世紀末まで、である。これらの図版と記述は、遺物や文献を駆使した実証的なものであり、ストラットの著作の中では最も価値あるものである。巻末には、図版の典拠とその写本の一覧が付されている。初版のフランス語版につづいて、本書のフランス語版も手掛けられたが、完成しなかった。

ストラットは、同時代の服装史研究家メイリック (Samuel R. Meyrick 1783—1848) (22) と共に、伝統あるイギリス服装史研究の先駆者であり、その発展に多大の刺激を与えた。(内野)